

株式会社 Cutting-Art

ステッカーに代わり
インクジェットで車体にデザイン

事業内容

営業から施工まで一貫

「Cutting-Art」は平成19年に創業し、これまで主にトラック、バスや商用車などの車両への広告および看板などへカッティングステッカー施工を行っている。

同社の強みは複雑な形状や局面にも施工できる技術とノウハウを持っていることで、営業活動からデザイン提案、データ制作、見積もり、製作、施工までを自社にてすべて一貫して行えるところにある。

従来は品質のばらつきなどに問題

しかし、これまで一般的だったステッカーでは施工時に作業者の技術に基づく品質のばらつきが避けられず、施工時の軽微なミスが経年劣化以上の大きなクレームを呼ぶことがあった。加えて、ステッカーの施工材質は塩化ビニールで、トラックの車体などの凹凸面にはきれいに貼れないこと、紫外線による硬化や色あせが避けられないなどの問題もあった。

補助事業

インクジェット方式で作業を機械化

補助事業において、従来のステッカーの施工に代わる、特殊インクを利用したインクジェット方式の導入を図った。そして、これまで作業者の人的要素が大きかった作業工程を機械化し、ヒューマンエラーの軽減、作業者の技量不足による施工に対するクレームの低減を目指した。また作業者の技量に頼ることが少なくなった分、雇用の確保と人材育成も容易に行えるなどのメリットも考えられた。

施工条件の適正化など準備

(株) エルエーシーのオートボディプリンタを平成27年11月に入荷し、速やかに設備の据え付け、検査、調整を行った。そして、装置の基本的な操作方法や制御調整方法、メンテナンス方法などの研修の後、具体的な部材別・形状別の施工条件の適正化と、施工条件のシミュレーション、装置の適正設定条件の確立を行い、平成28年6月から営業を始めた。

株式会社 Cutting-Art

代表取締役社長 内藤 亮
〒566-0062 大阪府摂津市烏飼上3-14-13
TEL. 072-668-2676 FAX. 072-668-2677
資本金/5,000千円 従業員/4名
主な取引先/いすゞ自動車販売近畿(株)、大江戸温泉物語貸切観光ホテル、大阪白野自動車(株)、京都白野(株)、近畿三菱いすゞトラック・バス(株)、(株)トランテックス、日本フルハーフ(株)、兵庫日産自動車(株)、SGモータース(株)、UDトラックス(株)
主な保有設備/ボディプリンタ、大判ラミネーター、大判インクジェットプリンタ、カッティングプロッターなど
主力製品/従来からのシールや、新たに導入した特殊インクによるインクジェット方式を使った車両への広告等の施工

短納期 企画力 小ロット OK 量産 OK 試作 OK 連携力

新しい技術の可能性に挑戦

代表取締役社長 内藤 亮

この新しい技術を始めると目にしたとき、従来の技術に対して言いようのない危機感に襲われました。実際には従来のシール施工と両立する形で市場開拓できるのではないかと考えており、その可能性に挑戦しています。



導入したオートボディプリンタ



作業場とバスの施工例



いずれもトラックの施工例

具体的成果

提案営業が可能に

この新技術の導入により大手企業への提案営業が可能になった。施工単価も下がったほか、他分野への進出の検討もできるようになった。そして、作業者の技量の差が出にくくなるとともに、今後は品質の向上とクレームの減少につながる事が期待されている。

人材確保も容易に

従来のシールは経年劣化したものをはがす際、トラックやバスなどの車体を傷めるトラブルが多々起こっていた。このため車両売却時の下取り査定も、シールが貼られている車は通常の車と比べて査定が安くなる場合があり、利用者にとってはコスト高につながっていた。新システムは貼り替え施工に特殊な溶剤を使うことで、車体を傷めることなく、作業そのものの簡便化と作業時間の短縮につながった。

また、熟練の作業者しかできなかった作業が、少しの習熟度で施工可能となったため、人材確保も容易で、現在同社でも社長以外に20代の若手3名が働いている。当面はさらに営業と現場作業で2名ほどの採用を考えている。

今後の戦略

既存顧客を深耕

新技術の導入は、同社の対応範囲を大幅に広げている。具体的には、大手トラック販売ディーラーに対してこの技術をアピールすることで、今まで以上の信頼を獲得することが期待でき、売り上げ増を目指している。

また、これまで施工実績の少なかった業界、例えば乗用車販売ディーラーおよびカスタムショップ、移動広告を主とするバスや電車などの公共交通機関、屋外広告物にも多角的な営業活動を行い、顧客の多様化と経営の安定化を図ることができる。

異業種に向けても
積極的な営業活動を展開へ

「痛車(いたしゃ)」と呼ばれるアニメ等のキャラクターをプリントした車両を街中で時折見かけるが、こうした需要にも対応できそうだ。また、車以外にもその応用はさまざまな分野で可能だ。靴、コンクリートブロック、シャッター、楽器など、これまで想像できなかったものにまで対応できる。同社では展示会などに出席を予定するなど異業種に向けても積極的な営業活動を行っていくことにしている。

取材を終えて

きっかけ次第で一気に普及も

従来の技術に取って代わるかもしれない新技術が現れたとき、どう対応するかで企業の先行きは左右される。しかしわかってはいても今ある制約からなかなか逃れられないのが常だ。内藤亮社長はそれを乗り越えた。まだ用途的に嗜好性が強い面もあるが、異業種とのコラボレーションなど、何かきっかけがあれば一気に普及する可能性も考えられる。トラックの車体を使って地域の活性化にも結び付くようなアイデアも考えられており、今後の動きが注目される。

<http://www.cutting-art.co.jp/>